

序

防衛研究所戦史部長 辻川健二

戦史部の前身である「戦史室」は、昭和三十年十月陸上自衛隊幹部学校内で発足しました。翌三十一年五月防衛研修所に編入され、五十一年五月「戦史部」に改編されるまでの約二十年間は、「戦史叢書」の編纂・刊行及びその編纂に必要な史料の収集・整理を主任務としておりました。

全一〇二巻の『戦史叢書』刊行後は、我が国及び諸外国における国防政策史、戦争指導史、作戦・戦闘史等の調査研究並びに史料集の作成等を通して自衛隊の教育や研究に寄与しております。また研究成果の一部は、防衛研究所主催の戦史研究発表会や、各種学術誌への寄稿により世に問うていきます。

この間に収集・整理された貴重な史料は、五十五年防衛研究所図書館に移管され、戦史史料として広く一般に公開されております。保管されている史料は、旧陸海軍の建軍当初からの公文書や、個人の記録等であり約十一万六千冊にのぼります。これらの史料の閲覧者数は年々増加し、昨年は一日平均約十五名、約九十冊が利用されております。また、これに関連する参考調査業務（レファレンス）も年間約二千件に及びます。我が国唯一の戦史研究センターとしての重要な使命が改めて痛感される次第であります。

今回、『防衛研究所戦史部年報』を発行することになりました動機は、戦史部の活動をより一層充実せしめたいと意図したところにあります。本創刊号には、軍事史学会会長伊藤隆先生並びにかつて戦史部に勤務された先輩諸氏から特別に寄稿していただきました。また、創刊に因んで「戦史部略史」や「戦史叢書」の来歴および概要」を特集いたしました。

今後、本年報は、戦史関係論稿、戦史部発表会記録、研究会記録等を掲載するほか、所蔵史料の解題・紹介や戦史部の活動報告等を主な内容として、年一回発行する予定であります。当戦史部が研究を中心とした日常の諸業務のなかで自ら編纂し記録として残すものであります。今後更に内容と形式を充実整備し、戦史等の学術研究や行政の参考にいささかでも役立つことができればこれにすぐる幸いはなく、各方面の御協力を切望する次第であります。

平成十年三月